

「コロナ対策地元助成事業の実施事業（新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業）」二次公募の内定団体一覧

一般社団法人 全国コミュニティ財団協会
2021/4/6

(全6団体・順不同)

No	団体名	所在地	申請事業名	助成額	総事業費		申請事業概要	採択のポイント
					管理的経費	直接事業費		
1	認定特定非営利活動法人さぬぎっずコムシアター	香川県	さぬぎっずまなび家プロジェクト	¥2,000,000	¥2,165,280	¥0	¥2,165,280	<p>学習支援者を養成し、生活困窮家庭等の小中学生に学習支援や創造活動体験の機会を提供するとともに、子育て支援コーディネーターが親の相談に応じ、専門機関に繋げられる体制づくりを行う。</p> <p>・これまでの活動実績もあり、その延長としてコロナ禍において困窮家庭が置かれている具体的な課題に対応する取り組みとして意義は高く、団体としての信頼感と安定感もあると評価されました。</p> <p>・学習支援事業のスタッフを養成・確保を円滑に行えるのかという点の懸念が指摘されました。ぜひご対応をお願いします。</p>
2	NPO法人ライフサポートアゴラ	愛媛県	食と学習の居場所づくり事業	¥2,000,000	¥2,000,000	¥0	¥2,000,000	<p>企業と連携したフードバンク活動によって食品を集め、コロナ禍で失業したり、収入が減少した世帯に子ども食堂や学習支援を行う。また被支援者に有償で弁当を配達してもらい、賃金を支払う。</p> <p>・当事者の一人ひとりの声を聞き取り、コロナ禍での子どもたちの置かれている状況や課題をきちんと把握された活動となっており、これまで地域で地道に実績を積み重ねられているという点からも高く評価されました。</p> <p>・これまでの制服リユース活動だけでなく、学校と連携した学習支援事業の再開や学習支援とつながる子ども食堂、企業との連携によるフードドライブの展開と、支援を届ける地域内のネットワークの拡充が期待されています。</p>
3	松山さかのうえ日本語学校	愛媛県	国際子ども食堂	¥2,000,000	¥2,084,000	¥0	¥2,084,000	<p>コロナ禍で収入が減少している外国人シェフが調理し、生活苦に陥っている留学生に食事を提供する形式の子ども食堂を開催するとともに、各種補助制度についてやさしい日本語で情報提供する。</p> <p>・子ども食堂に来る地元の子もただでなく、調理するシェフもコロナ禍において経済的苦境に立たされている外国人という2階建ての支援構造となっており、困窮者支援と外国人支援、国際交流という多面的な価値を持った事業として高く評価されました。</p> <p>・今後、地域において在留外国人との交流をより深めていくことが求められていく中で、他地域のモデルとなるような取り組みとして発展することを期待されています。</p>
4	一般社団法人 NATURE&HUMANS JAPAN	愛媛県	コロナ禍中の在日外国人・社会的弱者支援	¥2,000,000	¥2,000,000	¥336,000	¥1,664,000	<p>コロナの影響で仕事や住居を失い困窮状況にある愛媛県内外の在日外国人に対して、一時保護のシェルター運営や相談業務および就労・研修などの支援を行う。</p> <p>・コロナ禍において在留外国人を取り巻く問題がより顕在化している一方で、その支援が乏しい中、住居や就労をはじめとした各種支援を地域の関係団体と連携して展開することは重要な事業であり、意義があると評価されました。</p> <p>・助成期間内で完結する性質ではない事業であり、終了後のシェルター運営等の継続性や事業を遂行する上での団体の事務基盤に改善の余地がある旨の指摘がありました。ぜひ、ご検討及びご対応をお願いします。</p>
5	イマココ子育て支援	愛媛県	地域の居場所「イマココ学童保育」事業	¥2,000,000	¥2,000,000	¥147,000	¥1,853,000	<p>コロナ禍において、特に事態が深刻なひとり親家庭や、やむを得ない理由で一人で過ごさないといけない環境にある子どもを対象に、放課後に安心して過ごせる居場所を提供する。</p> <p>・コロナ禍において顕在化されにくい保護者の置かれた状況に対して、公的機関が十分に対応できていない課題の解消につながる事業だと評価されました。</p> <p>・これまでの活動実績があるものの、助成期間が限られている中でいかに効率的に学童保育所の開設ができるのかの懸念が指摘されました。ぜひご対応をお願いします。</p>
6	まほら子ども食堂	愛媛県	子ども宅食プロジェクト「Gumi」	¥2,000,000	¥2,135,000	¥50,000	¥2,085,000	<p>生活困窮している子育て世帯に食料品や日用品を詰めた箱「Gumi Box」を週一回配達するとともに、専門職（ソーシャルワーカー）の視点からコロナ禍における生活の困りごとの相談に応じる。</p> <p>・コロナ禍において困っている家庭に対して、スクールソーシャルワーカーと連携することで個人情報に最大限の配慮を行いつつ、必要な福祉サービスに繋ぎやすくなる点が大きく期待できると評価されました。</p> <p>・スクールソーシャルワーカーをはじめとした地域の多様な方たちと連携する今回の試みが、今後、他地域におけるモデルとなることが期待されています。</p>